



六地蔵

観音

平成22年 3月
第44号

発行
広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-4
真言宗 正観寺
小出 真弘

仏道遠からず、

廻心えしん

すなわち是これなり。

(一切経開題)

仏として生きる道は遠いところにあるのではない。心をめぐらしさえすれば、そこにある——と。

心は悩むことが仕事である

生きるということはたいへん苦しいことで、

の中でも、身体の問題よりは心の問題で、我々は悩んでいるのですね。生まれてから死ぬまで、心の問題で悩んでいます。不満があったり、自信がなくなったり、悩みごとが生まれたり、そういう心の悩みは尽きることがありません。心から明るく、楽しく、気持ちも軽く、心底から笑って生活することは、なかなかできることではありません。我々がものすごく感激している時間というのは、ほんのわずかなのです。大部分の時間はなんの感激もなく、何かどこかで、いつでも悩んで生きているのです。

朝起きてから「ああよかった。すごく楽しい。気持ちいい」と思う時間と、そう思わない時間を一日だけでもいいので、チェックしてみてください。「ああ気持ちいい」と思っても、またすぐ何

かあって困ったりする。そうすると、我々が一日の内でもそれほど悩んだり、神経質になったり、不安になったり、苛立ったり、落ちつきがなくなったりしているかがわかります。

心というのは「悩む」ことを基本のあり方としているものなのです。子供なら泣くのが当たり前なのです。でも、「悩みたくない」というのが本音なのです。それなのに悩む。それは矛盾なのです。





春季観音大祭紫燈護摩（火渡り修行）



福餅まき



石鎚山頂上（御山開き大祭）



地蔵祭り（演奏）

密教とは

一本の木に葉が茂り

木と木は集まり林となり

その林はさらに森となるように、

一は全体と成り、全体は一から成っている。

この密なる森（全体）の奥に踏み入って、

もつとも奥にあり、秘められている

はじめの一本の木に触れること。

これを密教といえます。

この秘められた木こそ、

あなたがほとけとなり

ほとけがあなたとなる

すばらしいところ。



からだ

人が母親の胎内に宿ってからこの世界へ出るまでには十ヶ月以上かかります。その期間、一個の細胞から無数の分裂がくり返され、人体が形成されていくわけですが、それには、とても興味ぶかい方法がとられているといえます。

まず芋のような形の大雑把なものができる。たとえば手の場合、こぶしのようなものができ、次にそこから不要な細胞が剥落して指になるのだそうです。このように、人体はまず大体の形が作られて、次第に細かく仕上げられていくのです。

それはちょうど仏像を彫るのと同じ過程だとは思いませんか。仏師は、木から仏を作り出すのではなく、その木の中に本来から在る仏を彫り出すのだといえます。それにならって言えば、私たちの「からだ」とは、本来的に存在する生命いのちが、母親の胎内のなかで形となつて、余分なものを取り除いて彫り出されたもの、と言えないでしょうか。つまり、私たちのこの「からだ」とは、新たに作り出されたものではなく、戴いたものなのです。



仏前のおつとめ

灯明と線香を上げ、姿勢を正し、合掌礼拝する。数珠を軽く二三度擦り、祈念する。鈴りん(金)を打ってお経本を開ける。

合掌礼拝して読経をはじめ。

勤行次第は、懺悔・三帰・三竟・十善戒・発菩提心・三昧耶戒・開経偈・般若心経・十三仏真言・光明真言・御宝号・祈願文・回向で終わるのが普通であるが、時間の都合により適宜、選んで読んでもよい。

お経の声は高からず低からず、お経の一字一句を、よく經典を見て、自分の声をよく耳に聞きながら読み、静かで落ち着いた気持ちを保つ。

「お経は耳でよめ」といわれている。特に二人以上で読経する時は自分勝手な読み方をせず、人の音調を耳で聞きながら合わせて読むことが大切である。

また、お大師さまは『秘藏記』のなかで、五種類のお経の唱え方(五種の念誦)を説いておられる。

- 一、自分の耳に聞こえる程度に声を出して唱える(蓮華念誦)。
- 二、口の中で唱える(金剛念誦)。
- 三、心の中で唱える(三摩地念誦)。
- 四、心中から声が発するように唱える(声生念誦)。
- 五、口から光明を発すると念じて唱える(光明念誦)。

身の読経から心の読経に、行者の読経から如来の読経に転じてゆく様がよくわかる。

仏壇のお供え（六種の供養）

水（布施）

大地を潤し草木を育み、生き物の乾きを癒やす。

この水の如きみ仏の慈悲、万物に恵みを施す。

塗香（持戒）

手に香を塗れば、身も心も清められ

仏のみ姿を、我等の心の内に磨き出す。

花（忍辱）

冬を越え、春に咲く花のように

忍ぶ力は、おのずと人の心を和らげる。

線香（精進）

清き薫りを、^{あまね}遍き十万に行き渡らせ、

身を灰にしなが燃えつつづける精進の姿。

飯食（禪定）

生命を養う力となり、心に安らぎを与える。

静かなるみ仏の教えこそは無上の食べ物。

灯明（智慧）

迷いの闇を破り、世間を灯しているのは智慧の

光。

もろもろの時空を超えて輝く、み仏の光。

ともに歩む

あなたが歩くと影ができる。

影は

あなたの前に来たり

後ろに来たりするけど、
とにかく、あなたについてくる。

もしも、あなたに影がなかったなら

どこをどのように歩いているのかも

わからないでしょう。

このように、どんなときにも

影のように付き添ってくれる方を、

お大師さまといえます。

○平成二十二年度 年間行事予定

一月一日～三日

修正会

二月三日

星祭（星供）

三月一日～二十四日

春季彼岸参り

三月十四日

観音大祭（火渡り修行）

四月四日～六日

小豆島八十八ヶ所霊場巡拝

七月四日～五日

霊峰石鎚山参拝

七月二十四日～八月十五日

盆参り

八月二十二日

地藏祭・施餓鬼

九月一日～二十六日

秋季彼岸参り

十二月三十一日

年越祭

・毎月十八日に月並観音供（内護摩）

十八日が祝日、日曜日の場合は、二十一日

に月並大師供（内護摩）を厳修

但し、大祭の為（二月・三月・八月）は無

し

・御詠歌講習会（月一～二回程度）

参加者募集

一、平成二十二年四月四日（日）

～六日（火）二泊三日

『小豆島巡拝』費用 三七、〇〇〇円

二、平成二十二年五月六日（木）

～八日（土）二泊三日

『本四国巡拝』費用 五〇、〇〇〇円

三、平成二十二年五月十二日（水）

～十三日（土）一泊二日

『高野山参拝』費用 未定

四、平成二十二年七月四日（日）

～五日（月）一泊二日

『石鎚山参拝』費用 三三、〇〇〇円

※お問い合わせ（正観寺）
〇八二―二八二―五六六二迄

<http://www.shokanji.com>

正観寺HP（ホームページ）を
近日公開予定です。

是非お楽しみにお待ち下さい。

